ヴィエトナム・バックマイ病院プロジェクト進捗状況

－2002年3月31日現在－

バックマイ病院プロジェクト チーフアドバイザー　　小原 博

1. プロジェクト概況

1-1 プロジェクト名：

（日本語名）バックマイ病院プロジェクト

（英語名）　The Bach Mai Hospital Project for Functional Enhancement

1-2 協力機関：　　2000年(平成12年)1月10日~2005年(平成17年)1月9日

1-3 プロジェクトサイト：　バックマイ病院

78 Giai Phong Street, Dong Da District, Hanoi, Vietnam

1-4 相手国実施機関：　保健省国際協力局,　バックマイ病院

1-5 日本側協力機関：　国立国際医療センター、 東京大学、国際医療福祉大学など

1-6 プロジェクト上位目標：　ヴィエトナム北部における医療水準が向上する

1-7 プロジェクト目標：　バックマイ病院における医療の質が向上する

2.緒言

ﾊﾞｯｸﾏｲ病院（BMH）は1911年に設立されて以来、ヴィエトナム北部の医療に多大の貢献をしてきた。診療対象地域は北部31省に及びﾊﾉｲ医科大学の最重要教育病院として多数の医師やﾊﾟﾗﾒﾃﾞｨｶﾙｽﾀｯﾌを育成してきた。しかし、1980年代には 施設・機材の老朽化、職員の訓練不足、管理能力の不備など多くの問題を抱え、同国北部の医療に大きな影響を及すに至った。係る情況下、ヴィエトナム政府は保健医療新5ヶ年計画（1996~2000年）を基盤に、BMHの機能を強化することにより北部諸省の住民がより良い医療ｻｰﾋﾞｽを受けることを目指してﾏｽﾀｰﾌﾟﾗﾝを作成し(1996年10月)、整備計画を開始した。

1994年ﾊﾉｲ市内主要医療施設整備支援の一環として、日本政府より同病院に対し初めて機材供与が実施された(約2億円)①。1998年9月－2000年7月、同病院に対する無償資金協力ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄが実施され、新病院建物建築及び医療機材供与が実施された(約60億円)②。さらに技術協力の要請に基き、諸調査ののち技術協力ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄが開始された（2000年1月）

①日本の援助が初めてBMHに対し実施されたのは1994年であり，ﾊﾉｲ市内9病院に対する緊急援助の一部として行われた．その時，CTｽｷｬﾝ，X線撮影装置，生化学検査機器などが供与された．これらは今日に至るまで有効に使用されている．

②1998年9月、無償資金協力ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ （ﾊﾞｯｸﾏｲ病院改善計画、総額60億円)が開始された。新病院建物（6階建病棟470床，4階建技術棟及び2階建研修棟からなる）の建築及びｱﾝｷﾞｵｸﾞﾗﾌｨｰ、臨床検査機器、超音波検査機器、内視鏡などの医療機材供与が実施された（2000年6月完工)。

3. バックマイ病院プロジェクトの目的及び特色

本技術協力ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄはｳﾞｨｴﾄﾅﾑ北部の基幹病院であるBMHにおける医療ｻｰﾋﾞｽの質を改善し、さらに同国北部の医療水準向上を目指している。①3次医療機関としての基盤整備、②研修機能改善、③地域医療に貢献（広範囲におよぶ裨益効果を目指す）を重点事項として掲げ、日越合同作業で作成したPDMに基きﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄを実施している。同病院はﾍﾞｯﾄ数1,400床を有するｳﾞｨｴﾄﾅﾑ最大規模の総合病院であり、さらに本ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄでは地方への速やかな裨益を重視しているため、対象部署数は多く、BMH内各部署との連携のみでなく、地方病院、国内支援機関、他のJICAﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄとの協調をとくに必要としている。ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ開始当初より地域医療をﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑに組み入れたこと、教育研修機能を効率よく推進するためにIECを取り入れたこと、無償資金協力のｲﾝﾌﾟｯﾄを最大限有効に活用する使命が与えられていることなど、多くの特色を有している。

本ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄにおける協力対象部署は以下のとおり（＊重点部署）：

病院管理分野：　総合企画，＊病院情報管理 ＊機材管理，財務管理，薬剤管理，院内感染対策
臨床医学分野：　Rank A:　＊消化器内科，＊救急/ICU，＊小児科
　　Rank B:　腎臓内科、呼吸器内科，外科（消化器、麻酔科）
　　Rank C:　感染症科，循環器内科，神経内科，糖尿病科
看護分野：　＊看護管理，看護学校（研修）
検査室管理分野：　＊検査室管理、検査技術
地域医療分野：　＊地域医療指導，　（地域医療活動に関連した部署）

4.各分野における技術協力概要

4-1 病院管理分野

4-1-1 総合企画： 副院長･総合企画部長らと長期専門家より構成される運営委員会を設置し、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ運営及び病院総合企画の基軸とした。本委員会においてﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ運営、病院管理運営、現存する問題点等を討議している。本委員会のほか病院長との会議を適宜開催している。
ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ開始以来、必須事務機器の供与（ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ、ｺﾋﾟｰ機、FAX機、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰなど）、職員に対するｺﾝﾋﾟｭｰﾀ技術研修（JICA情報管理ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの協力による）、他病院における管理業務の視察、ｵﾌｨｽ環境の整備等を実施してきた。それらの結果、事務効率さらには病院管理能力の向上が認められている。2001年3月、病院管理ｾﾐﾅｰを開催した。
看護師の薬剤に関する雑務を軽減し看護業務を適正化することを目指して、総合企画部の主導下で薬剤業務改善に関する計画案が作成された（2001年12月）。院内教育は総合企画部が一括管理するｼｽﾃﾑ下で実施されている。

4-1-2 病歴管理： 外来及び各病棟における病歴簿が改善された（病歴簿改善作業はICD10に基くｺﾝﾋﾟｭｰﾀ管理に合致するよう進められた）。入院病歴の中央管理に関する指導が行なわれ 病歴室の設備及び管理体制が改善された。病歴･統計管理室が設立されｺﾝﾋﾟｭｰﾀによる管理が実施されている。最近、病歴室を利用する医師らが増加している。

4-1-3 医学図書： 教育･研修能力向上及び最新情報提供を意図して図書室機能改善を計画した。本計

画に従い、医学書及び雑誌供与、必須機材（棚、ｺﾋﾟｰ機、視聴覚機器等）の整備を実施した。図書室内にﾋﾞﾃﾞｵｺｰﾅｰを設け、専門家の講義やﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄが作成した教材を自由に閲覧できるｼｽﾃﾑを構築した。併せて医師・看護婦らに図書室利用と勉強会開催を促しており、最近図書室利用者数が著しく増加している。

4-1-4 院内感染対策： 院内感染対策委員会が設置され（2000年1月）、院内感染対策ﾏﾆｭｱﾙが作成された(10月)。ﾎｰﾁﾐﾝ市内主要病院（小児病院No.1等）およびﾜﾝﾋﾟｰ病院における院内感染対策に関する実情調査を実施した（5月及び10月）。これらの結果とBMHにおける実情をもとに院内感染対策研修ｺｰｽを実施した（2000年10月、BMHｽﾀｯﾌ130名、2001年12月、BMH及び地方病院ｽﾀｯﾌ67名を対象）。現在、院内ｽﾀｯﾌを対象とした院内感染対策指導を継続実施中である。2001年9月-2002年3月、院内感染の実態を正確に把握し、適切な報告ｼｽﾃﾑを構築することを目的とした研究を実施した。

4-1-5 IEC： 2000年4-5月派遣の短期専門家によりDOHA活動紹介ﾋﾞﾃﾞｵが作成された。教育研修業務を効率よく実施していくことを主な目的としてIECｾﾝﾀｰが開設され(2000年10月1日)、専属ｽﾀｯﾌ3名と兼任ｽﾀｯﾌ2名が配属された。9月下旬～2001年1月下旬の間派遣された短期専門家によりﾋﾞﾃﾞｵ教材（教育研修用、専門家講義、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ及び病院紹介）、患者教育用ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄの作成、及び各種資料・ﾃｷｽﾄ等作成の支援が行なわれた。2001年5月より長期専門家による技術指導が実施されており、ﾋﾞﾃﾞｵ教材（院内感染対策、安全注射、ﾄｰﾀﾙｹｱ）、教育用ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ（ﾄｰﾀﾙｹｱ、糖尿病食事療法）などの作成を支援した。作成過程においてｶｳﾝﾀｰﾊﾟｰﾄに対しIEC基本技術移転や各種教材の効果的利用法に関する指導が実施された。現在、各種教材の有効活用及び地域医療への貢献に重点を置いて作業を実施している。

4-1-6 病院情報管理： 短期専門家により総合企画部、外来棟、財務部に対するHIS（病院情報管理ｼｽﾃﾑ）構築に関する基本技術・運営に関する指導が実施された。さらにｺﾝﾋﾟｭｰﾀ操作要員約150名に対しJICA情報管理ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの協力で主に基本操作に関する指導を実施した。総合企画部、財務部ではHISが順調に稼動し、病院管理能力向上が認められている。HIS運営に必要な障害対策手順書及びｿﾌﾄｳｴｱ使用ﾏﾆｭｱﾙ類を整備するとともに、ｿﾌﾄｳｴｱ及びﾊｰﾄﾞｳｴｱ会社による運営・保守管理の支援態勢を整備した。

外来棟におけるHIS運営開始を目指してｿﾌﾄｳｴｱの実務操作やｼﾐｭﾚｰｼｮﾝﾄﾚｰﾆﾝｸﾞなど、操作要員の特訓を行ない技術能力向上を図った。これまで総合企画部、外来棟、財務部にｺﾝﾋﾟｭｰﾀを計114台、その他の部署に19台導入した。2002年度初頭に外来棟のHISを完全稼動させる予定であり、現在、外来棟改修整備計画に合わせて外来棟におけるHIS運営開始の準備を進めている。

HIS管理室（中央医療情報部の前身、現在総合企画部に属する）には管理要員5名（専任1、併任4）が配属された。総合企画部を中核として財務部・外来棟を有機的に連携し、財務管理や患者管理を含めた病院管理能力の向上を目指すのが、当ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄにおけるHIS計画の最重点事項である。

4-1-7 機材管理：BMHにおける医療機材の実態、部品供給ﾙｰﾄ、問題点に関する調査を実施したのち、機材ﾘｽﾄ作成及びｺﾝﾋﾟｭｰﾀへの入力を行なった。さらに、無償資金協力及び技術協力ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄによる供与機材の使用状況、問題点の有無に関する調査および保守管理に関する指導を実施した。病院管理職員に対する講義（2000年、6、7月、計2回)及び機材管理職員に対する研修会（9月）を実施し、機

材部ｽﾀｯﾌ 1 名が日本において研修を受けた（2001 年 4-7 月）。
2002 年 3 月派遣の短期専門家により、日本による供与機材の総点検、定期点検に関する指導、機材購入計画に関する助言が行われた。

4-1-8 財務管理： ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ開始前、財務部長が日本で 5 週間研修を受けた。開始後短期専門家により財務計画、分析、ｺﾝﾋﾟｭｰﾀによる財務管理などの指導が実施された。
JICA情報管理ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの協力により財務職員30名を対象としたｺﾝﾋﾟｭｰﾀ管理に関するﾄﾚｰﾆﾝｸﾞを実施し、ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ 40 台を導入した。これらの結果、財務管理能力の向上が認められている。2001 年 12 月、料金徴収ｼｽﾃﾑ（入院、外来、薬剤等）の改善案が作成された後、実行に移された。

4-1-9 施設管理： 新病棟施設・機材の現状調査から開始し、問題点を把握したのち、問題解決に向け技術指導や助言が行われた。本技術指導はこれら施設・機材を有効に維持活用することを願って、予防的管理技術を移転することに重点を置いて実施した。施設管理の観点に基づいた院内感染対策の指導も実施した。

4-2 地域医療分野

4-2-1 基礎調査・基盤整備： BMH 地域医療指導（DOHA）業務の主な指導対象となる地方病院 31 病院（27 省病院、3 ﾊﾉｲ市立病院、1 ﾊｲﾌｫﾝ市立病院）について実態、BMH に対する要望、地域との関連等に関する調査を実施した。これらは DOHA 活動計画作成及び成果ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞ上の基礎資料として活用されている。ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ開始前、部長に対する研修を日本で実施し、開始後 DOHA 活動に必要な機材（四輪駆動車、OHP、ｽﾗｲﾄﾞﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀｰ、ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ、ｺﾋﾟｰ機、ｺﾝﾋﾟｭｰﾀﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾀ-等）を供与し活動基盤を整備した。

4-2-2 地方病院における研修会実施： 2000 年度、15 省病院において研修会を実施した。このうち 5 回長期専門家が同行し感染症に関する講義を行なった。3 月末までに上記 31 省病院に対し医学書供与を実施した。
2001 年度には、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ支援（一部及び全部）による研修会を 9 回実施した（LaiChau, HoaBinh(2 回), HaTinh(2 回), VinhPhuc, LaiChau, BacNinh 各省病院）。この他、保健省の予算で 8 研修会を実施した。

4-2-3 ﾊﾞｯｸﾏｲ病院における研修会実施： 2000 年度、省病院ｽﾀｯﾌを主な対象として 7 研修会を実施した（看護、消化器内科、ICU、小児科、生化学検査、感染症、循環器）。2001 年度は 8 研修会を実施した（救急、一般内科、感染症看護、麻酔科、院内感染対策、生化学検査）。

終了時評価では高い満足度と知識の向上が認められている。これら研修会に対し、専門家は主に企画・教材作成・講義を行っている。地方病院との連携促進にも極力努めている。

4-2-4 その他： 地方病院から移送された患者の検査結果、診断、経過等に関する回答を実施している。企画に関する指導及び BMH 各部署間の連携促進に努力しており、教材作成の支援も実施している。DOHA 活動をより効果的に展開し速やかな裨益効果を得ることを主な目的として、重点地方病院（3 病院）に対する基本機材供与計画及びﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ協力構想が起動した。

4-3 臨床医学分野

小児科、消化器内科、救急医学科、感染症科、ICU、腎臓内科、呼吸器内科に対する技術指導が実施された。派遣専門家により、これらの分野における技術協力の基盤が構築されるとともに、教育・研修や新病棟運営に関する助言が行なわれた。各専門家とも講義や症例検討会を通して最新情報の伝授に努めた。これらの科のほか、循環器内科、神経内科、糖尿病科、中毒疾患科の研修ｺｰｽに対する支援及び麻酔科に対する基本機材供与と運営指導が実施された。

ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ期間中、臨床部門に対する主な技術指導の内容は以下のとおり：

1)主要診療技術の移転
2)基本的診断・治療手技の強化
3)症例検討会及び定期ｶﾝﾌｧﾚﾝｽの強化
4)卒後研修ｶﾘｷｭﾗﾑの整備
5)ﾏﾆｭｱﾙ（または教科書）の作成
6)地域医療への貢献（DOHA と協力）
7)組織・管理体制に関する助言

4-3-1 小児科： 小児科基本手技を強化することに重点を置いた指導から開始し、講義や症例検討会により呼吸器感染症に関する最新情報を伝授した（2000 年 4 月）。2000 年 9 月派遣の短期専門家により循環器疾患、悪性腫瘍の診断・治療及び小児 ICU 技術に関する指導が実施された。
2001 年度は新生児医療及び腎臓疾患の診断治療に関する指導を行なった（とくに超音波直視下で実施する腎臓生検技術の移転を重視した）。

4-3-2 消化器内科： 内視鏡検査手技（胃、大腸、ERCP）及び腹部超音波診断に関する技術指導を実施した（2000 年 7 月）。5 回の講義により、消化器疾患の病態生理、病理、診断、治療などが指導された。医学教育に関する助言も行なわれ、2000 年 9 月に定期抄読会が発足した。
2001 年 9 月派遣の専門家により、肝臓生検及びｳｲﾙｽ性肝炎の治療に関する技術指導が実施された。消化器内科を最重点 Pilot 病棟と位置づけて臨床、看護を一体化した包括的観点より技術指導を実施している。
2001 年 11 月派遣の専門家により消化管の内視鏡検査、ERCP の指導が行なわれ、消化器疾患診断技術の向上に貢献した。新設された機能検査部内視鏡部門に対し機能集中化の観点より運営指導を行った。

4-3-3 救急医学科： 症例検討会、講義等により救急医学に関する基本技術の指導を実施した。BMH 救急部設立に先立って、ﾊﾉｲ市における交通事故及び救急ｼｽﾃﾑの実態調査及び準備委員会を設置した。同委員会において救急部の業務、設備、人事、運営等について討議を実施したのち、救急部の運営を開始した(2001 年 3 月)。
2001 年度は新設救急部における業務を起動に乗せるとともに基本技術を充実させることに重点を置いて技術指導を実施した。基本機材の供与、運営指導、外傷学の技術指導（講義中心）、救急ｼｽﾃﾑ構築に関する助言などが行なわれた。2002 年 1 月より 4 ヶ月の予定で救急部長が日本で研修を受けている。

4-3-4 感染症科： ｳｲﾙｽ性肝炎の症例をもとに診断･治療に関する技術指導を実施し、研究や勉強会の有り方について助言を与えた（2000年6月)。HaTinh病院(6月)、VinhPhuc病院（11月)、LaiChau病院（2001年6月)、HoaBinh病院（11月)、BacNinh病院(12月)、CaoBan病院（2002年3月）における感染症研修ｺｰｽ（DOHA主催）及びBMHにおける研修会（2001年3月）において「世界の感染症」「ﾏﾗﾘｱ」「環境と疾患」「注目のｳｲﾙｽ感染症」をﾃｰﾏとした講演を行なった。
肝臓生検及び抗ｳｲﾙｽ剤によるｳｲﾙｽ性肝炎治療の指導を実施した（2001年9月)。

4-3-5 ICU： 2000年度、基本技術の指導及び新病棟ICUの運営やｽﾀｯﾌのﾄﾚｰﾆﾝｸﾞに関する助言を行った。冠動脈疾患及び呼吸管理の講義も実施した。
2001年11月、ICU研修（院内ｽﾀｯﾌを対象）に合わせて専門家が派遣され、講義及び実習により呼吸･循環器管理の技術指導を行った。ICU看護に関する指導も開始した。

4-3-6 腎臓内科： 2001年4月、新病棟の運営及び急性腎不全の治療、IgA腎症の診断・治療に関する指導が実施された。2002年4月、超音波直視下による腎生検法の技術指導と病理診断、急性腎不全に対する透析療法の指導を行った。

4-3-7 呼吸器内科：2001年2月、BMH呼吸器内科の実情視察後、新病棟運営に関する指導、入院患者の診断･治療に関する指導を行った。

4-4 看護管理分野

ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ開始前、看護部長が日本で研修を受けた。長期専門家および短期専門家により、BMH看護管理の実態調査及び問題分析が実施され、これらは技術指導上基礎資料として活用されている。
看護部及び看護学校に基本機材（事務機器、実習ﾓﾃﾞﾙ等）を供与し業務能力改善に努めた。過去に実施された看護研修の見直しを行ない、教育委員会を設置するとともに(2000年11月）新人看護婦に対する研修会を実施した（2000年7-11月)。
2001年2月､IMCJ看護部長によるﾄｰﾀﾙｹｱ導入に必要な基礎技術に関する指導が実施された。その後、新病棟における看護管理とくにﾄｰﾀﾙｹｱ実践に関する諸調査と協議を経て、ﾄｰﾀﾙｹｱ導入を本格的に開始した。必要な教材の作成（ﾋﾞﾃﾞｵ、ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ等)、ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ開催後（2001年9月)、ﾊﾟｲﾛｯﾄ病院（消化器内科、ICU）にてﾄｰﾀﾙｹｱに関する技術指導を実施している。指導には長期専門家のほか短期専門家3名も加わった（2名は国立病院ﾈｯﾄからの派遣)。2001年9月、保健省より各病院宛にﾄｰﾀﾙｹｱ導入を奨励する新通達が発行された。院内看護ｽﾀｯﾌを対象とした研修会としてHIV-AIDS研修（2001年11-12月)、新人看護婦研修を実施した（2001年12月)。
BMHおよび近郊の4病院（DongDa, 国立小児、HaiDuong、YenBai）を対象に外来患者の満足度調査を実施した（2002年1-3月、看護協会の協力による)。ﾄｰﾀﾙｹｱ教材ｾｯﾄを作成し、ｳﾞｨｴﾄﾅﾑ北部の各病院に配布する計画を進めている。

4-5 検査室管理分野

臨床検査部門の実態調査及び新病棟運営に関する助言を行い、講義により精度管理の基本を概説した（2000年4月)。生化学検査における精度管理能力改善を目指した技術指導が実施され（9-10月)、精度管理能力を向上させた。地方病院ｽﾀｯﾌを対象とした生化学研修（3ヶ月ｺｰｽ）を実施した。

2001年度派遣短期専門家により、生化学検査記録報告ｼｽﾃﾑに関する指導が行なわれた。ｶｳﾝﾀｰﾊﾟｰﾄ研修及び生化学研修（地方病院ｽﾀｯﾌ対象、2002年1月）により生化学における技術協力の総仕上げを行なった。
2002年2月、血管造影の基本技術及、肝動脈塞栓法による肝臓癌の治療に関する指導を実施した後、ｶｳﾝﾀｰﾊﾟｰﾄ3名とともにﾁｮｰﾗｲ病院を訪れ、症例検討会を開催した。

5 その他の主な実績・特記事項

5-1 オープニングセレモニー・第一回合同委員会： 2000年9月29日、JICAﾞｨｴﾄﾅﾑ事務所、在越日本大使館、保健省、計画投資省、ﾊﾉｲ医科大学、BMHの関係者150名が出席してBMH新病棟2階大講堂でｵｰﾌﾟﾆﾝｸﾞｾﾚﾓﾆｰが行なわれた。
ｾﾚﾓﾆｰに引き続き、同日午後2時より管理棟二階会議室で保健省との第一回合同委員会が開催された。BMH、保健省の合同調査委員会ﾒﾝﾊﾞｰ及び日本人専門家、JICAﾞｨｴﾄﾅﾑ事務所職員出席のもと、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ運営に関する有意義な意見交換が行なわれた。

5-2 新病棟業務開始： 2000年11月24日より新病棟における業務が開始された。2002年2月末現在、特に大きな問題はなく業務が実施されている。2001年1月31日、専門家室の一部が新病棟に移り、4月下旬までに専門家室、病院長室を含めすべての部署の移転が完了した。2000年12月、新病棟における職員45名(公務員)増加が認められた。このうち39名は看護職員である。このほか契約職員も増員された。新病棟は安全管理、清潔管理に特別な配慮を払っており、外来者の入場制限を行なうとともに、これらの管理業務を外部業者に委託実施している。

5-3 第1回運営指導調査： 2000年11月26日-12月2日、JICA運営指導調査団による調査が実施された。ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ開始以後の進捗状況報告に引き続き、問題点について討議が行なわれた。主な内容は新病棟におけるﾄｰﾀﾙｹｱ導入、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ指標、BMHと地域医療、新病棟の人事配置である。11月28-29日、VinhPhuc省病院で実施中のDOHA主催感染症研修ｺｰｽを視察した。

5-4 グランドセミナー（病院管理セミナー）： 2001年3月8-9日、BMH新病棟大講堂において病院管理ｾﾐﾅｰが開催された。新病棟の運営管理を効率よく推進することにより、無償資金協力及び技術協力ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄのｲﾝﾌﾟｯﾄを最大限有効に発揮し、さらに地方病院との連携を促進することにより大きな裨益効果を得ることを目的とした。
参加者はBMHｽﾀｯﾌ及び日本人専門家のほか、保健省、29省病院、ﾊﾉｲ市内の病院、ﾁｮｰﾗｲ病院など3国立病院の代表者計230名であった。16の演題を基に活発な議論が展開され、終了式典時に31病院に対し医学書が贈呈された。これら医学書はその後の追跡調査により有効に活用されていることが確認されている。

5-5 機能検査部新設： 2001年4月、新病棟2階に機能検査部が設立された。同部はこれまで各科に分散していた検査機能を一括管理し、病院運営を効率よく推進することを目的としており、機能の集中化・中央化を目指す本ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの趣旨と合致した構想である。内視鏡検査、生理検査、超音波検査の3部門よりなる。

5-6 トータルケアシンポジウム： 2001年9月13-14日、BMH病棟大講堂においてﾄｰﾀﾙｹｱｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑが開催された。患者の精神的・社会的背景を考慮した質の高い医療を導入し、ﾍﾞﾄﾅﾑの各病院に普及させる基盤を構築することを目的としている。BMH新病棟をﾍﾞﾄﾅﾑにおけるﾄｰﾀﾙｹｱのﾓﾃﾞﾙとすることに対し保健省は大きな期待を寄せている。
参加者は日本人専門家のほか、保健省の代表、BMH医師・看護婦、ハノイ市内7病院及び地方7病院の院長・看護部長ら計274名。各代表のｽﾋﾟｰﾁ及び講演（6題）ののち、グループ討論・全体討論と質疑応答が行なわれた。

5-7 北部地域利用体制強化プロジェクト形成調査 （プログラム協力）
ﾍﾞﾄﾅﾑ北部のﾄｯﾌﾟﾚﾌｧﾗﾙ総合病院であり、現在JICAのﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ方式技術協力によって大型の協力を実施しているBMHが本来具備している地域医療活動を実施する機能と連携しながら、地域における保健医療ﾚﾌｧﾗﾙｼｽﾃﾑの強化に、JICAの多彩なｽｷｰﾑを用いてどのように協力を展開していけるか探ることを目的に、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ形成調査が実施中された(2001年10月14日-10月25日)。
ﾊﾞｯｸﾏｲ病院ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄは地域医療をﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑの中に組入れ、上位目標として「ﾍﾞﾄﾅﾑ北部における医療水準の向上」を掲げている。しかし、BMHの直接の指導対象は省病院ﾚﾍﾞﾙであり、広く一般住民に裨益効果を及ぼすには当ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの範疇で地域医療指導を実施するだけでは効果が乏しい。ﾊﾞｯｸﾏｲ病院ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの上位目標を効率よく達成する為にも、他のﾍﾙｽﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑと連携して地域医療活動を実施することが望まれる。
ﾍﾙｽﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑとの連携についてはﾊﾞｯｸﾏｲ病院ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの活動計画と整合性を保った形で実施するのが理想的である。同ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ地域医療指導の重点病院として指定している省病院を拠点としたﾍﾙｽﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑを開始しﾊﾞｯｸﾏｲ病院ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄとの連携のもとにﾄｯﾌﾟﾚﾌｧﾗﾙ医療機関からﾌﾟﾗｲﾏﾘﾚﾍﾞﾙまで速やかに裨益効果が及ぶよう施策を展開することを願っている。

5-8 第2回合同委員会： 2001年10月25日、新病棟第4会議室で保健省との第二回合同委員会が開催された。BMH、保健省の合同調査委員会ﾒﾝﾊﾞｰ及び日本人専門家、JICAﾍﾞﾄﾅﾑ事務所職員が出席し、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの活動報告及び運営に関する助言が行なわれた。

5-9 第2回運営指導調査： 2001年11月4日-10日、JICA運営指導調査団による調査・指導が実施された。ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ開始以後の進捗状況報告のあと、ﾄｰﾀﾙｹｱ実施過程における問題点、地域医療を主とした将来構想、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ指標に焦点を当てて討議が行なわれた。11月6日、HoaBinh省病院で実施中のDOHA主催一般内科研修ｺｰｽを視察した。

5-10 栄養科新設： 2001年12月1日、食事療法実施を主な目的として栄養科が新設された。現在準備段階であるが、2002年中頃完成予定の新建物内で本格的に業務を開始する予定である。

5-11 院内感染対策セミナー： 当ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄは医療の質を高めることを重視しており、院内感染対策及び院内環境整備は医療の質向上にとって不可欠であると認識している。2001年12月3日-21日の間、院内感染対策部と地域医療指導部の合同主催でBMH及び地方病院ｽﾀｯﾌ計67名を対象としたｾﾐﾅｰが開催された。

5-12 日本・ラオス・ヴィエトナム三国間協力調査： ﾗｵｽで実施中のJICAｾｸﾃｨﾗｰﾄ病院ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄのｶｳ

ﾝﾀｰﾊﾟｰﾄらを BMH で研修させ、ｾﾀﾃｨﾗｰﾄ病院の機能向上に寄与することを目的にﾗｵｽ側より調査団が派遣され、BMH を視察後協力の可能性について協議が行なわれた（2001 年 12 月 4 日-8 日）。ICU 及び内分泌･糖尿病科における研修より開始し、その後様子を見ながら協力拡大を考えることで合意し、2002 年度末に実現を目指して準備を進めることにした。将来 BMH を隣国諸国を含めた医療の中枢として機能させる案に対し、ﾗｵｽ･ｳﾞｨｴﾄﾅﾑ双方とも強い期待を抱いている。

6. チョーライ病院との連携及び他病院の視察：

ﾁｮｰﾗｲ病院ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの成果を学び教訓をﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ運営に活かすことを主な目的として、BMH ｽﾀｯﾌと専門家合同による Study Trip が実施された（ﾁｮｰﾗｲ病院を含め以下の Trip が実施された）。

1)院内感染対策（2000 年 4 月）： ﾁｮｰﾗｲ病院、ﾎｰﾁﾐﾝ市第一小児病院、熱帯病ｾﾝﾀｰ
2)院内感染対策（2000 年 12 月）： ｳﾝﾋﾞｰ病院
3)病院情報管理、病歴管理、IEC（2001 年 3 月）： ｳﾝﾋﾞｰ病院
4)看護管理（2001 年 3 月）： ﾁｮｰﾗｲ病院
5)総合企画、地域医療（2001 年 3 月）： ﾁｮｰﾗｲ病院
6)病院情報管理･IEC（2001 年 8 月）：ﾁｮｰﾗｲ病院、小児病院 No.1
7)看護管理(2001 年 10 月)： ﾁｮｰﾗｲ病院
8)血管造影（2002 年 2 月）： ﾁｮｰﾗｲ病院
9)看護管理･薬剤管理（2002 年 3 月）： ﾁｮｰﾗｲ病院

このほか、ﾁｮｰﾗｲ病院側からは幹部職員による BMH の地域医療及び IEC 活動の現状に関する視察が実施された（2001 年 1 月）。上記病院管理ｾﾐﾅｰでは、ﾁｮｰﾗｲ病院長による「ﾁｮｰﾗｲ病院ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄにおける病院管理の成果」と題する講演が行なわれた。ﾁｮｰﾗｲ病院で実施された看護(4 名)、機材管理、(2 名)、透析（1 名）、財務（1 名）各研修会に受講生を派遣し学習した。ﾁｮｰﾗｲ病院及び一部地方病院に対し教育用ﾋﾞﾃﾞｵを配付した。

7. 総括

ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ開始後 2002 年 3 月 31 日までの間に長期専門家 5 名に加え短期専門家 40 名が派遣され、PDM に基づき技術協力を実施してきた。新病棟が技術協力の主な場となり、無償資金協力ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄのｲﾝﾌﾟｯﾄを最大限活用しながら、日越双方が協力してﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ目標達成に向け努力している。

2 年間に及ぶ技術協力の結果、殆どの分野で協力体制が構築され徐々に目に見える成果が現れてきた。とくに生化学検査室管理、ICU、院内感染対策はほぼ目標域に達しており、今後これらの部署を研修の場として活用することにより一層の裨益効果を目指したい。地域医療指導も体制が整い、地方病院に対する技術指導を活発に実施している。臨床医学の各分野では基本技術の充実に加え、3 次医療機関として有益な技術も移転されている。図書室や病歴管理室は改善され教育･研修･病院管理能力向上に貢献している。患者ｹｱ、ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｼｽﾃﾑを取り入れた病院管理、IEC による教材作成支援なども基盤が整い、今後さらなる発展が期待される。

ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ上位目標達成のために極めて効果的な手段と思われるﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ協力構想が動き出し、ﾗｵｽとの南南協力も具体化しつつある。BMH における医療の質を向上させるとともに地方病院や近隣諸国の医療水準を高めることを目指して将来構想も着々と進行しつつある。

8.専門家派遣実績：

8-1 長期専門家

1. 小原 博	チーフアドバイザー・臨床医学・地域医療	2000年1月10日～2002年7月9日
2. 碇 賢治	業務調整	2000年1月10日～2002年9月9日
3. 加藤紀子	看護管理	2000年1月10日～2002年1月9日
4. 小林一之	機材管理	2000年1月10日～2002年1月9日
5. 隅田一明	IEC	2001年5月7日～2003年5月6日

8-2 短期専門家

1. 村岡 亮	病院管理（病歴）	2000年2月20日～2000年3月11日
2. 木村昭夫	救急医学	2000年3月6日～2000年3月18日
3. 小出大介	病院管理（情報）	2000年3月16日～2000年3月29日
4. 倉辻忠俊	小児科	2000年4月5日～2000年4月18日
5. 川畑 久	検査室管理	2000年4月5日～2000年5月2日
6. 福原ゆかり	IEC	2000年4月9日～2000年6月9日
7. 實吉佐知子	看護管理（教育）	2000年5月10日～2000年8月5日
8. 杉本孝生	病院管理（財務）	2000年6月12日～2000年7月7日
9. 林 茂樹	感染症	2000年6月25日～2000年7月2日
10. 松枝 啓	消化器内科	2000年7月8日～2000年7月22日
11. 此崎寿美	検査室管理	2000年9月25日～2000年11月4日
12. 松下 竹次	小児科	2000年9月25日～2000年11月24日
13. 隅田一明	IEC	2000年10月3日～2001年1月27日
14. 木村昭夫	救急医学	2000年12月10日～2000年12月23日
15. 鈴木俊子	看護管理	2001年2月4日～2001年2月11日
16. 小出大介	病院管理（情報）	2001年2月7日～2001年2月20日
17. 柳下芳寛	ICU	2001年2月12日～2001年2月24日
18. 村岡 亮	病院管理（病歴）	2001年2月25日～2001年3月17日
19. 宮島倫史	病院管理（総合企画）	2001年3月4日～2001年3月10日
20. 平林国彦	地域医療	2001年3月4日～2001年3月17日
21. 石川修三	施設管理（施設・電気）	2001年3月12日～2001年4月17日
22. 斎間恵樹	腎臓内科	2001年4月8日～2000年4月17日
23. 岡田有弘	施設管理（機械）	2001年6月4日～2000年6月30日
24. 青山高久	病院管理（情報）	2001年7月2日～2001年9月28日
25. 小出大介	病院管理（情報）	2001年8月1日～2001年8月14日
26. 實吉佐知子	看護管理	2001年8月5日～2001年10月5日
27. 佐々木裕子	看護管理	2001年9月4日～2001年9月28日
28. 塩見真紀	看護管理	2001年9月4日～2001年9月28日
29. 林 茂樹	消化器内科/感染症	2001年9月17日～2001年9月29日
30. 宮澤広文	小児科	2001年10月1日～2001年10月27日

31. 貝沼裕昭	検査室管理	2001年10月1日～2001年10月31日
32. 岩切龍一	消化器内科	2001年11月5日～2001年12月1日
33. 木村昭夫	救急医学	2001年11月12日～2001年11月29日
34. 柳下芳寛	ICU	2001年11月18日～2001年12月1日
35. 杉本孝生	財務管理	2001年12月16日～2001年12月29日
36. 蓮尾金博	血管造影	2002年1月22日～2002年2月7日
37. 工藤宏一郎	呼吸器内科	2002年2月25日～2002年3月7日
38. 村岡 亮	病歴管理/医学教育	2002年2月25日～2002年3月16日
39. 斎間恵樹	腎臓内科	2002年3月17日～2002年4月4日
40. 輿座 卓	機材管理	2002年3月17日～2002年3月30日
41. 関口典子	小児科	2002年4月1日～2002年4月27日

9.カウンターパート研修：

1999年度： 副院長、財務部長、庶務部長、地域医療指導部長、看護部長、腎臓内科部長
2000年度： 病院長、総合企画部長、人事部長、血管造影、
2001年度： 機材管理、周産期医学（沖縄）、消化器内科、生化学検査、小児科、救急